

日本拳法大会出場

# ロシア人選手 書道など体験

西宮の学校訪問

大阪市内で24日に行われた「日本拳法総合選手権大会」に出場するロシア人選手ら約25人が20日、武庫川女子大付属中学・高校（西宮市枝川町）を訪れ、書道や茶道など日本の伝統文化に触れた。

日露青年交流センター（東京都）が取り組む交流事業の一環。同校の創作ダンス部が毎年、選手権大会の会場でダンス演舞を披露していることがきっかけで訪問が実現した。

たイタリア選手2人が到着。書道や茶道、筆曲部の活動を見学して回った。書道体験では、書道科の江草和彦講師の指導で、「愛」「幸」「福」などの



初めての書道に取り組み

漢字と格闘。初めて筆を手にした選手らは、書道部の生徒から筆の持ち方や書き順を教わりながら丁寧に書いていた。途中、江草講師が「拳法」や「押忍」と書き上げる場面もあり、選手らは熱心に筆の動きに見入っていた。

ロシアのフョードロフ・アレクセイ選手(27)は「日本の歴史に触れられて興味深かった。日本の生徒にもロシア文化に関心を持ってほしい」と話し、書道部の生徒に民芸人形マトリョーシカをプレゼントした。

(竜門和諒)